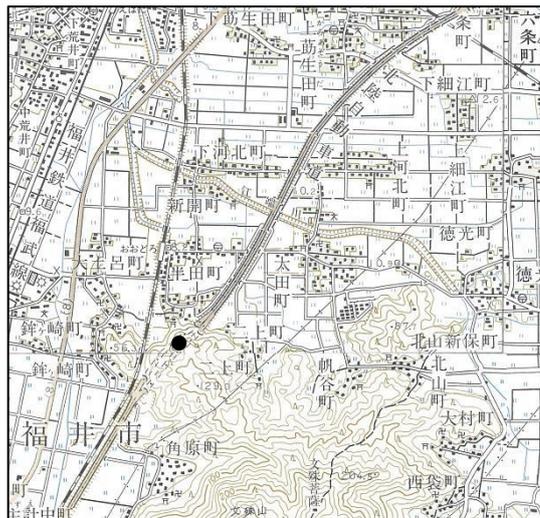


ふたがみ はんだ こふんぐん  
6. 二上・半田古墳群

所在地：福井市二上町  
調査原因：北陸新幹線建設  
調査期間：平成 29 年 7 月 3 日～8 月 31 日  
調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター  
調査面積：230 m<sup>2</sup>  
時代：古墳時代



位置図 (S=1/50,000)

**調査の概要** 二上・半田古墳群は、福井市と鯖江市の境界である文殊山から続いて延びる北側の丘陵部に分布しており、現在までに約 27 基の古墳の存在が知られています。今回、調査を行った古墳は、古墳群のなかでも東端に位置します。

調査は北陸新幹線建設に伴い、福井トンネルとその関連工事の予定地を対象として実施しました。調査区は古墳東側の約 2/3 にあたります。古墳は北側の斜面の一部が墓地によって削られていましたが、その他は、おおむね良好な状況のまま残っていました。

**遺構** 古墳は直径約 15m の円墳であり、高さが約 3 m、標高が約 39m を測ります。厚さ約 1.5m の盛土によって築かれています。埋葬施設は墓壇を 2 基確認しました。南北方向に並列しています。最初の墓壇 (SX1) が埋められた後に、新しい墓壇 (SX2) が作られており、追葬が行われたようです。2 基ともに、棺の種類は、「割竹形木棺」と推測されます。また、頭部方向と考えられる墓壇の北端部には、拳大から人頭大の山石が集められている点でも共通しています。SX1 の規模は、長さ 4.1m、幅 1.4m、深さ 0.2m を測ります。内部には棺を設置するための掘り込みがあり、こちらは長さ 3.6m、幅 0.6m、深さ 0.3m を測ります。SX2 は東端部のみ確認できましたが、規模は長軸 3.8m、幅 0.3m、深さ 0.3m を測ります。

**遺物** すべて副葬品として墓壇の内部から出土しました。SX1 では、中央東寄りのところから、管玉 1 点と短剣 1 点が見つかりました。短剣は切っ先が南側を向いています。管玉は底面から 3 cm、短剣は同じく 2 cm 上で見つかり、ともに棺内に収められた遺物と考えます。管玉は長さが 2.1 cm、太さが 6 mm を測ります。短剣は全長が約 28 cm、厚みが約 0.6 cm であり、刃は長さが約 24.5 cm、幅が約 3 cm、茎は長さが約 3.5 cm を測ります。SX2 では、中央東端のところから、管玉が 3 点まとまって出土しました。底面から 28 cm 上で見つかり、棺の上に置かれていたと考えます。色調と材質は SX1 出土品とほぼ同じですが、やや大きく、長さが 3.3～3.5 cm、太さが 8 mm を測ります。

**まとめ** 今回の発掘調査によって、二上・半田古墳群の一部が明らかとなりました。古墳群を造営した集団の集落については、古墳群より北側の平野部に位置する糞置遺跡がその候補地にあげられます。発掘調査によって古墳時代前期の遺構や遺物が見つかっており、古墳群との強い関連がうかがえます。  
(山本孝一)



調査地遠景（南方上空から）



古墳検出状況（東方上空から）



埋葬施設完掘状況（南から）



SX 1 遺物出土状況（東から）



SX 2 遺物出土状況（南から）